

2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

大黒屋ホールディングス株式会社
(東証スタンダード市場:6993)

 大黒屋ホールディングス
DAIKOKUYA HOLDINGS



2026年2月13日

26.3期 第3四半期 業績

● 26.3期 第3四半期(累計) ハイライト

● 業績ハイライト(累積)

売上高

80.9 億円

前年同期比 +4.4%
(計画比 77.7%)

売上総利益

22.8 億円

前年同期比▲0.6%
(計画比 79.8%)

商品在庫

21.7 億円

前年同期比 + 67.2%
(計画比 144.7%)

販管費

28.5 億円

前年同期比 ▲2.9%
(計画比 82.4%)

● 第3四半期 トピックス

- 1 キーストーン・パートナース(KSP)との資本業務提携及び経営体制の変更
- 2 KSPより第三者割当増資43.7億円の資金調達及び最大19億円の借入枠設定並びに既存取引銀行とコミットメントライン35億円の借換え
- 3 コスト構造改革の進捗
- 4 商品在庫の積上げの進捗

● 26.3期 第3四半期(累計) 連結損益計算書

- 売上高は、前年同期比で増収。大黒屋事業(リユース・質利息)において、前年同期比を上回り、好調に推移。
- 利益ベースでは、売上総利益は横ばいも、販管費が前年同期比で減少した結果、営業赤字幅は縮小。

単位:百万円	25.3期 3Q	26.3期 3Q	前年同期比 (増減)	前年同期比 (%,pt)	要因コメント
売上高	7,751	8,092	+341	+4.4%	売上高 ✓ 10月・11月は前年同水準の売上となつたものの、KSPとの提携以降、クリスマス商戦に向けた仕入及び積極的な在庫積み上げを行つたことで、12月は昨対比+8.6%の増加に。結果として昨対比+4.4%の増加となつた。
リユース	6,863	7,158	+295	+4.3%	
質料	635	688	+53	+8.3%	
電機事業ほか	254	247	▲7	▲2.8%	
売上総利益	2,299	2,285	▲14	+0.6%	売上総利益・粗利率 ✓ 金相場の上昇を受け、店舗買取における地金比率が上昇。これに伴い、店舗売上(リユース)における市場仕入の比率が高まつたことで粗利率(除く質利息他)が低下。結果として売上総利益は横ばいとなつた。
粗利率	29.7%	28.2%	-	▲1.5pt	
粗利率(除く質利息)	23.4%	21.6%	-	▲1.8pt	
販管費	2,938	2,853	▲85	▲2.9%	
営業利益	▲639	▲568	▲71	▲11.1%	
営業利益率	▲8.2%	▲7.0%	-	+1.2pt	

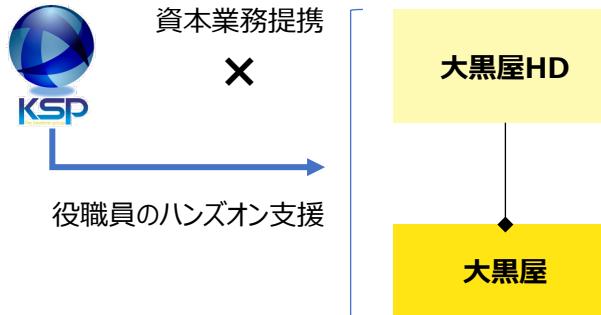
● 26.3期 第3四半期(累計) 連結貸借対照表

単位:百万円	25.3期	26.3期 3Q	前年同期比 (増減)	前年同期比 (%)	要因コメント
流動資産	4,871	8,517	+3,646	+74.9%	現金及び預金
現金及び預金	559	3,416	+2,857	+366.1%	✓ 大黒屋HDにおいて、12/11付で実施された第三者割当増資にて43.7億円を調達。昨対比で大幅増となった。
商品	1,440	2,177	+875	+51.2%	商品
営業貸付金	2,118	2,086	▲32	▲1.5%	✓ 10/31付のKSPとの提携以降、保有有価証券等の売却で得た資金を投入し、クリスマス商戦に向けた仕入開始。
その他	754	286	▲468	▲62.1%	✓ また、増資資金が払込されて以降は、早期の店舗活性化を企図し、業者向け市場を活用しての在庫積み上げを実施。昨対比にて大幅増となった。
固定資産	1,408	1,599	+191	+13.5%	有利子負債
総資産	6,279	10,116	+3,837	+61.1%	✓ 大黒屋において、コミットメントライン35億円の借換えを実施。借り換えに際し、既存タームローン7億円の一括弁済を実施。昨対比で減少となった。
負債	5,284	3,942	▲1,296	▲24.7%	
有利子負債	4,450	3,260	▲1,190	▲36.5%	
短期借入金	3,800	3,260	▲540	▲14.2%	
長期借入金	650	-	▲650	▲100.0%	
純資産	994	6,174	+5,093	+512.3%	
負債・純資産合計	6,279	10,116	3,837	+61.1%	

● 26.3期 第3四半期 トピックス 1/2

1 キーストーン・パートナース(KSP)との資本業務提携及び経営体制の変更

● KSPとの資本業務提携

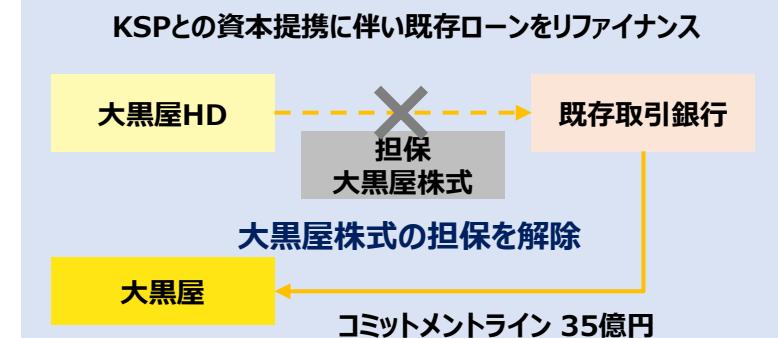
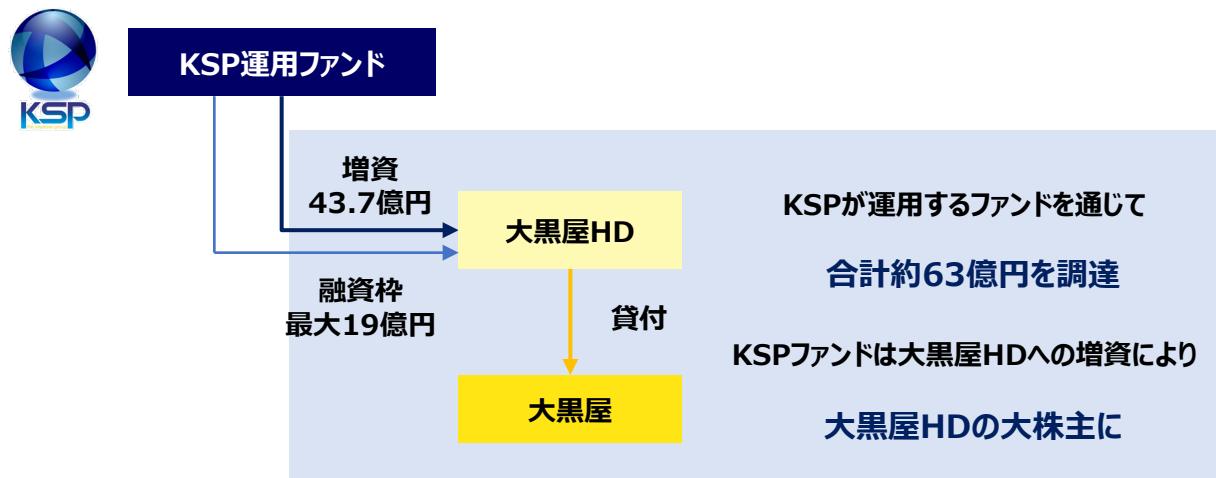


● 経営体制の変更

役職	前任
取締役会長	-
代表取締役	小川 浩平
取締役	辛 羅林, 鞍掛 法道
取締役 (社外)	伴野 健二
	中岡 邦憲

新任	経歴
堤 智章	(株)キーストーン・パートナース 代表取締役 現任
岩岡 迪弘	(株)キーストーン・パートナース 執行役員 現任
西浦 敦士	元 ジャパンクラフトホールディングス(株) 代表取締役
白石 正	三菱HCキャピタル(株) 特別顧問 現任 (元会長・社長)
山崎 篤士	小沢・秋山法律事務所 シニアパートナー 現任

2 KSPより第三者割当増資43.7億円の資金調達及び最大19億円の借入枠設定並びに既存取引銀行とコミットメントライン35億円の借換え



● 26.3期 第3四半期 トピックス 2/2

3 コスト構造改革の進捗

早期の期間損益黒字化のため
外部委託の見直し・内製化といったコスト構造改革を実施

● コスト構造改革目標及び進捗(25.3期年間販管費ベース)

	目標	削減進捗
大黒屋HD	2.6億円	2.4億円(92%)
大黒屋	10.8億円	6.1億円(56%)
合計	13.4億円	8.5億円(63%)

上記削減進捗に加え、
大黒屋では4.3億円の販管費を既に削減見込。**通期ベースの実質的な進捗率は96%**

コスト構造改革の進捗率は目標に対し63%
コスト削減により**通期ベース黒字化**視野に

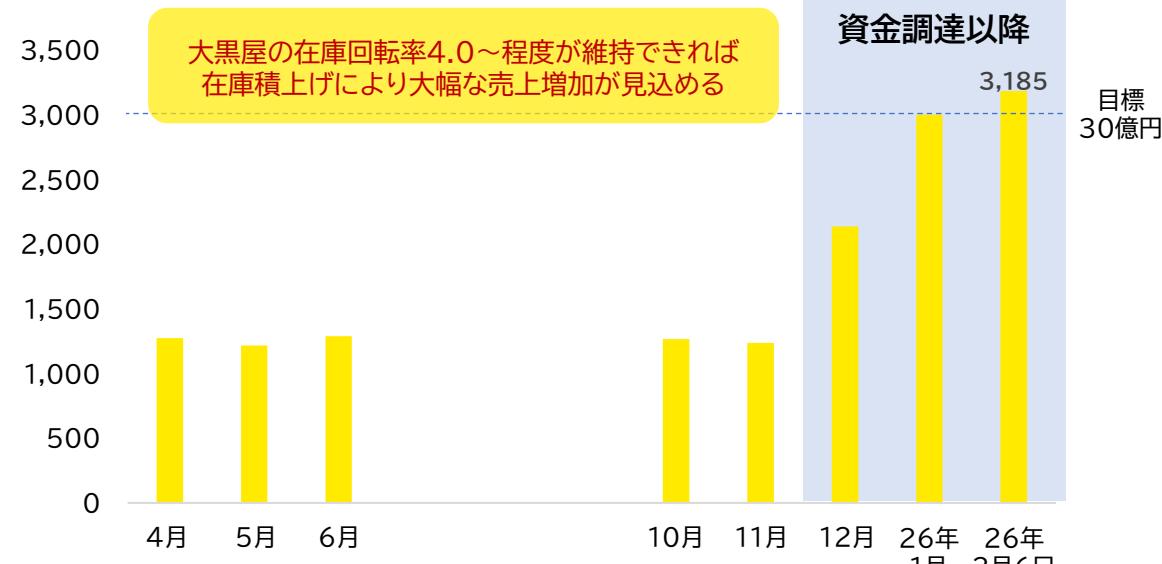
コスト構造改革による業績インパクト試算予想値(連結)

25.3期 営業損失約9億円 ⇒ 営業利益4.4億円

4 商品在庫の積上げの進捗

早期の店舗活性化、収益向上のため
オークション仕入を中心に商品在庫積上げを実施
(今後は在庫充当での店舗活性化に伴い店舗買取を強化へ)

● 26.3期在庫推移



在庫積上げ2月6日時点で
業績好調時の水準まで商品在庫を確保

ベンチマークとなる好調時の過去業績(大黒屋単体)

19.3期 在庫残高34億円 ⇒ 売上168億円・営業利益10億円

● 26.3期 通期予想

- 26.3期3Q迄は計画オンラインにて進行中。
- 4Qにおける変動要素は、①在庫増に伴う売上増、②コスト削減効果による販管費減、③構造改革費用による販管費増による。

単位:百万円	26.3期 通期予想	26.3期 3Q	進捗率
売上高	10,415	8,092	77.7%
リユース	9,139	7,075	77.4%
質料	857	688	80.3%
電機事業ほか	420	329	78.5%
売上総利益	2,863	2,285	79.8%
粗利率	27.5%	28.2%	-
粗利率(除く利息)	21.0%	21.6%	-
販管費	3,463	2,853	82.4%
営業利益	▲600	▲568	94.6%
営業利益率	▲5.8%	▲7.0%	-

免責事項

● 免責事項

- 本資料は、将来の見通しなどに関する記述を含んでおり、これら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断により作成されております。
- 本資料は、当社の2026年3月期第3四半期決算をご理解いただくための情報提供のみを目的としており、株式の購入や売却等の投資勧誘を目的とするものではありません。投資に関するご判断は、利用者ご自身の責任において行われますようお願い致します。
- また、これらの記述は、将来の当社業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性が含まれています。したがいまして、実際の業績等は、これらの要因によって見通しと異なる結果になることがあります。
- 当社は、将来の経営環境や前提要因の変更若しくは新たな情報などを反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。